



教員特別研究(重点研究)成果報告書 | 配分研究費:2,172千円

川根本町殿岡家文書にみる近代 ー地域社会における資源活用と人材育成のためにー

目的・概要

川根本町の殿岡家が所蔵する古文書を調査し、目録を作成して史料の散逸を防ぐとともに、地域資源としての古文書の活用方法を探る。さらに地方名望家であった殿岡家の活動を解明することで、明治から戦前期にかけての川根本町と周辺地域の歴史を復元する。

期間

令和4年4月1日～令和7年3月31日

研究担当者

文化政策学部 国際文化学科 教授 西田 かほる(研究代表者)
文化政策学部 国際文化学科 教授 水谷 悟

スケジュール

【令和4年度】 5月28・29日、6月18・19日、10月29・30日、 12月3・4日 【令和5年度】 7月1・2日、22・23日、10月14日、11月11日、12 月11日、令和6年2月17日 【令和6年度】6月15日、7月13日、11月16日、令和 7年1月25日 【各年度】後期ゼミ終了後	史料を借用し、静岡文化芸術大学において史料調査を実施。
【令和4年度】12月10日 【令和5年度】9月16～18日、12月9日～11日、 令和6年3月2～4日 【令和6年度】9月14～16日、12月14～16日、 令和7年3月22～24日	川根本町にて現地見学(令和4年度)、および殿岡家にて現地調査を実施。
令和5年1月10日	川根高校との交流授業の実施(於:川根高校)。
【令和4年度】2月8日 【令和5年度】12月10日 【令和6年度】12月15日	報告会の実施。および展示会(令和6年12月15～16日)の開催。

研究成果

教員特別研究「地域資源としての古文書を考えるー川根本町殿岡家文書の調査研究ー」(令和元～3年度)から今回の特別研究の6年間で、殿岡家が所蔵する未整理史料のうち8,400点余りの目録を作成した。目録を作成し史料群の内容を明らかにすることで、古文書の散逸を防ぐという目的を達成することができた。
目録作成と並行し、成果還元のための報告会を毎年開催した。令和4年度は静岡文化芸術大学においてWeb併用で実施し、令和5年度以降は現地(川根本町千頭・川根本町総合支所)で実施した。各報告会では当該年度の調査実績に加え、水谷悟「日露戦後における日英水電事業と殿岡嗽石」をはじめ、川根茶の流通や万博への出品、川根青年会の活動など、計8本となる。報告をもとに、西田かほるは「殖樹神社建設計画からみた林業家殿岡嗽石と日本平」(『静岡文化芸術大学研究紀要』vol.25、令和6年)をまとめた。
このほか令和4年度には川根高校との交流授業を実施し、令和5年度報告会では古文書ワークショップ、令和6年度には報告会の内容とあわせた展示会を開催した。地域の方々に実際に史料を見たり触れたりしていただくことで、地域資源としての古文書の活用と一緒に考える機会となった。



今後の研究成果の
還元方法

殿岡家文書調査を契機として、川根本町では別の家の史料調査もはじまり、継続的に報告会を実施していくことになった。成果を地域に還元するために、殿岡家のみならず史料の調査活動を継続していく予定である。